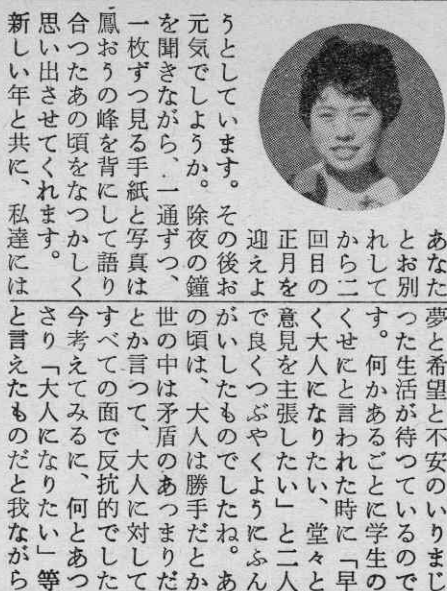
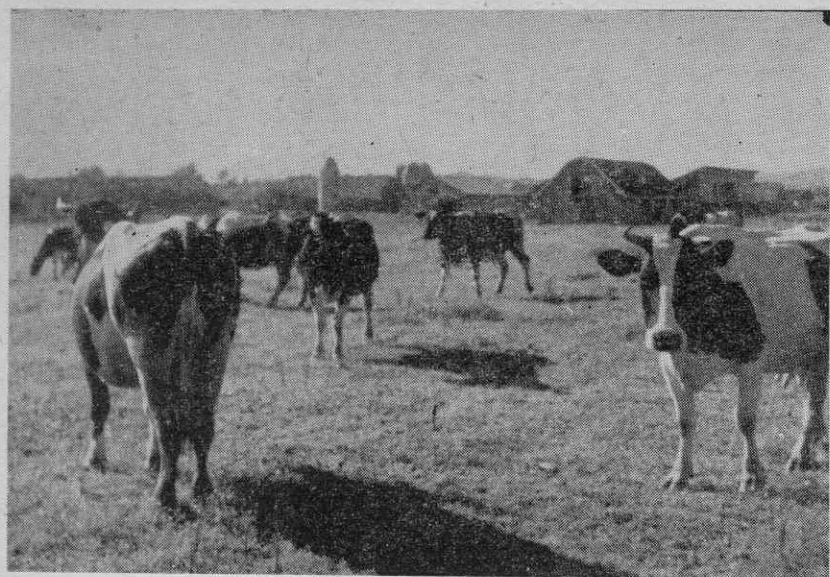


木村カヅ子



賀
春



おろしていた若い者こそ、大人にとつて次の代を背負う者に不安といきどおりを感じていたのではなかつたか、と思われるのです。

今後、これではいけないと思う。成人するということとは大人の仲間入りをするということです。大きく目を開いて、その現実の社会を良く知り尽さねばならない。自分の生活する現実を大切に、悪い面を正しくしていくことに人生の意義を見い出して生きるころの、正しい意味での理想が必要だと思っています。

学舎を出てすぐ実社会へとはとびこんだ私達は、学生の頃抱いた希望と夢が、この二年間に少なからず現実には破れた型になつてしまひました。

勉強したかつた二人だけに学問への魅力はいくら押しつけても忘れられぬものでした。現実はきびしくてか

あきれているのです。社会に出る時は、大人の世界は不純なものだ、その不純さと戦わねばならないとまるで戦場に出かける兵士のごとく、二人で未知の世界を切り開いて行くことをいつまでも語り合いましたね。

今は、その矛盾の勝手な世と人界の一人として、今までの考えを改めなければならぬと思います。

のぞむことが思うようにゆかない時などは、何かと社会悪や大人の世界のせいにしていた。自分達の欠点は一つも見い出せずに……。それはあなたと私ばかりではなく、若い人達にはこんな傾向が多分にあつたので

入選三点を決定

成人紀念
生活作文

さきに公民館で募集した成人記念生活作文は、去る一月五日締切りをし、八日最終審査を行なった結果、入選、木村カヅ子さん（李岱）高谷武男君（芹沢）和田チャさん（上杉）の三点、佳作二点を次のとおり決定した。この表彰は一月十五日成人式場において行なわれることになっている。

◎人選(三點)

友人への手紙

職人大工となつた喜び
母よありがとう

◎佳作

私の歩いた道
人生の季節

木村カヅ子(李岱)
高谷武男(芹沢)
和田チャ(上杉)
伊東キセ子(杉山田)
山岡邦男(雪田)

母よありがとう

和田 子 雅



今朝は
いつも
の自分
に似あ
わない
何か気
が重く、
目がい
しらが
暖かく
こんな
心理状
態の去
来する
朝です
した。

「成人の日」そうです。今日私は初めて社会人として一人前の人間として認めて頂ける最も意義深い日であると話す時でも、いつも完全

程、全身を砕ける迄に動かし、お腹の空いた私や弟にねだられ、始めて仕事をせよめると言つた生活の毎日。

ある時は、続いてくる学費の納金を言えなくて半分の泣きべそになつていて私達を母は良く理解してくれな

つそりお金を渡してくれな

だけどその時の私はちつとも大人じやなかつたのね。

どんなにか苦心に苦心を積

私をこんなにか

で育ててくれたのでしようか。今私はしみじみとそれを知ろうとしています。そして母の生きた苦しさを、痛い程刻まれた手や額の皺の中に、又白髪が増えた頭から察することができるとです。苦しかつたと一度も口にださなかつた、生きることつてどんなに難かしいことかを一度も話してくれはしなかつたけれど、でもそんな無言のそのまゝの姿から、すべてを察することができるとです。

私は、母以上の苦しさにそきつと母以上に明かるくた

の発言が少なくと言われま

す。発言することによつて

とか「生意氣だ」とか井戸

端会議の話題にされたり、

ウワサその他のために発言

する勇氣を失ふために勝た

なるといふ現実からしてそ

の因を探ぐ事ができます

けれども古い時代に封建的

に教育された母達とは、今

の時代が全く違つたことだ

と知つていいのではないで

しょうか。

ともすれば遠ざかりがちな

政治への関心も、今改めて

反省したいのです。

母は選挙のときなど、いつ

も決して頑固すぎる父では

びに変えていける自分にな

りたいのです。

成人となつて認められる許

される特権を、そつと静か

に胸の中にしまひ込むので

はなく、永遠の理想を求め

て前むきの姿勢で生きるこ

とだと思ひます。

真実こんなにも輝かしい日

に、喜びと不安のごつちや

になつた複雑な心境の中

にもやはりはつきり成人にな

れた感激と喜びを大きく吸

い上げる事ができるのです

この輝かしい成人の日にあ

つて、私をここまで育て

てくれた母に、そつと「母

よありがとう」とつぶやく

のです。

うりて、心はその大地に馳せているのだ。汗を流すこととわずしてその地を耕やし、夢と希望の純白の種子を蒔くであらう。しかし私達は、その大地のかたさ、きびしさを知らされることだろう。石ころ山、いばらの道、力ぎて、子供ばかりで……けれども少し母に客観的な見方では我が子を振り返つてみても頂きたいのです。そして少くとも今まではより気苦労が少なくなるんじゃないでしょうか。今日こんな言葉が、精一杯苦勞して育上げた我が子からの最大の御礼の言葉だとしたら、母は本当にそうなつてもいいのかなと半信半疑で……

けどやつぱり喜んでくれるのではないかしら。そうです。心から喜んで頂きたいのです。そして母の喜びを決して裏切りはしない娘になる事を約束します。一つ母に、やつぱり母にも立派に、自由に人間としての意志と主張をもった生き方がある筈なのに、それを自分自身で無視した、或は躊躇心を持つていつも淋しく生活している。幼いながらもそんな母を目前にするのがたまらない時が何度もありました。けど今は、何が母をそうさせたか、何故そうしなければならなかったかがはつきり分ります。現に今、私達の会合で女性頭の方が弱いんで、とどめをさして政治の話から逃れようとする。しかし強い意欲のない事と「政治」とはむずかしいものといふ先入観を持ちすぎているからではないのでしょうか。私自身そうなのです。いよいよ封建性に生きた母にはなさいます。でも私は知つてゐます。無知ということであるに恐ろしいことであるかということを――。

そして井戸端会議なる小さな世間を見ることしかできない娘にもなりたくない云われるままに戦場へ夫や子供を黙つて送つてしまふ母(妻)にもなりたくないのふと、こうまで成長した自分の過去を顧みる時、全く二十年という歳月が果して自分をどれ程まで成長させたのか、まるで何にもならない空虚な全てじやなかっただけです。とそれのこととを繰り返すことで苦しめてくれます。だけど今日、それが今の自分を作るために、そしてこれからのうんと強いつつに、そして自分に必要ないことを省くことにしたいのです。喜ぶよりも、とつても大きな不安に包囲されてる今日の全身を、一日と喜

とき 1月1日 ところ 役場会議室

司会 公民館長
金田英知

広報あいかわ編集部



安部
その点に入

先立つ物価の値上げ

前に今の池田内閣がとつてゐる所得倍増計画で、農業者が農芸にしても各町村ともそれだけの力を入れているのだから、生産過剰にならないもので、生産面は増すことが可能だが収入の面でできるかどうか。

国の所得倍増計画による一六兆円の投資の中農

を四割縮少すると云つてゐる、なるほど農業だけからみると人口を少くして経営規模を大きくするといふ訳けだが、この四割の人口をどこへもつて行くのか、もちろん商工業だと思ふが果してこれが完全に吸収できるかどうか。

もう一つは日本の農業がのびなかつた畜産果樹園

協会 佐藤	その点どうです、農協側からみると、最近農家が日雇をな
司会	農業人口の四割減とは實際農業に従事する人口を減ずると云うことではないですか。
安部	それは農村人口でなく實際従事する人口と解
司会	積していいのでないですか。



のむに容易
でないと言
つてゐる点
からして農

業人口がだんだん減つてゐることは事実です。戦後農村の民主化と云うことで農地改革を行つたが、これは結果的に零細農を作つた、たしかに兼業農家が増えたね。これを土地の生産性からみると兼業はどうしても専業に比べて落ちる。それから所得倍増のことだが、なる程国のスローガンとしては国民に希望をあたへることはよいとしても鉄道運賃は上るゝ郵便料も値上げするとなると結果的には消費物価の値上げになる。一方米価はおさえられる。この間農家の人達が農協へ来て不平を云つていたが本当にそうだ、そこで私はいや農家は米の追加金を要求するんだと話しました。

貧農切捨てか

農業所得倍増計画
 所得倍増とは収入と支出が倍になることでなく、収支によつて得る利益、即ち労働力の報酬として見かえつてくる所得のこと、例ば現在の平均所得三十万円を六十五万円にする、と云ふことだと思ふ。

この点から国の現在の施策の中で農業が果して迫り付いて行けるかどうかは長 日本は農業が他の国に比べて個人的園芸的農業であるところから生産コストが高つくわけではどうしても日本としては工業立国で行かなければならないと云うところから工業の発展形態に附帯して農村経済を進める、これが政府の考え方なので、工業の発展によって工業人口を増し、これに伴つて農村人口を減らすと云うことで、農村人口そのものだけを減らすと云うことではない計画

職人大工となつた喜び

高谷武男

私は現在「大工」として働いている。
職人になるまでには、並々

人は家に残つてもらわねば」という家の人の話である。

ならぬ苦勞が必要であつたひとくちに職人といつてもそこまで到達することは容易でないし、脱落して行く人も多くいる。しかし私は成功した。職人になつた。職人になれたのだ。この輝ける成人の日に、職人にあるまでの数々の思い出をあらたにしてみよう。中学校を卒業すると共に私は四人兄弟の三男である。次男はすでに東京に出ており、四男はまだ小学生である。どんなに私が頑張つても許しは出来なかつた。家に残つてどうしようというのか、勿論論はわかつていた。一人「助け人」が欲しかつたのである。「弟子」こう言う生活を、私は好きではない。しかし私は考へ

「どうして高校を出な
ければならないのか」「何
故都会へ出なければならな
いのか」「何故都会へ出た
が何をそんなに悩むのか」
「何も弟子だからと悲観す
ることはないではないか」
「むしろ一番安全な就職で
はないか」など……。

「それは出来なかつた。」「それはない。」「なぜばなる、な

題が非常に大きい訳け
 すが今までは稲もやりま
 た畜産も果樹園芸と多角
 経営的であつたが、これ
 からは單純化した農地か
 らは農作物と云うことで
 行くと農地を持たない農
 家がでてくると思うが。
 安部 昨日でしたか、ラジ
 オで放送していたが、飯
 米農家をどうするかと云
 うことで、農地信託制度
 を設ける。
 特ば農協なりでこれらの
 農地を集めて経営し、自
 分では農地を離れ工場な
 りで働き、しかし農地の
 所有は認め、その農地か

らは毎年収入が入ると云
 う制度のようでしたが、
 第二種兼業を農地から離
 すこと。しかし農地の所
 有を認めると云うことは
 かなり時宜に適する制度
 だと聞いてあつたが。
 国の施策と
 農業団体の動き
 司會 そこで、今制度
 化の問題で政府や學者間
 でいろいろな説があるに
 けですがこれを實際にと
 り入れる場合、農業団体
 がどのように政府の施策
 に入つて行くものかが非

心に決めた私は喜んで大工の弟子となつたのです。勿論大工そのものは嫌ひではなかつた。「好きこそもの上手なれ」と言う言葉がある。嫌ひな仕事を他人の進めて始めたよりも、好

んで選んだこの道に何不満が生まれようか。

しかし、實際飛びこんで見
て、はるかに、自分の現像
よりきびしくつらい世界だ
つたのに気づきました。

三十一年四月七日。その日
から私の弟子生活が始まっ
た。知らぬ仕事はむずかし
くなかなか思うように出来
ない。自分では一生懸命働
いて表現しよう。

「苦難中、また無限の樂あ
り」という言葉があります
その言葉がびつたりするよ
うな毎日、そして私は三十
五年四月、ついに四年間の
修業期間を終えたのだ。数
々の苦難と思ひ出を残して
こんど一職人大工として世
に出たのであります。この
喜び、この感激をどう言葉
で表現しよう。

いているつもりでも、他人
 はそうは見えてはくれない。
 むしろ馬鹿にされているの
 だ。同じ仕事を何度も教え
 られ、手にはいつも傷を残
 し、出来ない仕事が傷のた
 め又思うように出来ない。
 悪ければ悪い程注意され
 ましたしつづけた。大工は道具
 のほとんどのが双物であり、
 一度心に決めたことは、必
 らず実行しないと気が済ま
 ない私の気性が成功させた
 のかも知れない。その時の
 私はさすがに長い弟子生活
 から解放された安心感と自
 由になった喜びとで胸が一
 杯になつて更には、これに准
 むべき職人大工としての道に
 新たな希望が湧いてくるの

双物であるだけに手の傷は癒えることを知らなかつた。元能で指をつぶしたことも何度かありました。しかし私は恐れなかつた。苦しければ苦し程不思議に斗志が湧いてくる自分だつた。「今に見ていろ」こんな氣持で仕事に励んだ。だがいつまでもそうではなかつた。一年すぎ、二年す

私にこの天職を与えるべく導いてくれた家の人達に又これから一人前の成人として新生活を始める自分のために、今まで身に付けた技術と体験をフルに活用していきたいと考えるとき、これまでの家の人達の暖い愛情と理解を忘れることは出来ないのであります。

常には重要視されることですが、どうですか農業団体としての動きは。佐藤 まあ、対応して行かなければならないと云つてはいるが具体的にまだそこまで行つていない訳です。ただ私はこの地方の人柄からして企業的と云うか経営的に果して得るものかどうかと思つています。司會 しかし、農業経営の改善問題は農民の自主的農業団体が卒先して乗出すべきじゃないかと実は素人が先にか考へる訳で、まあ国が先に施策を打出したの、これに批判なり農業団体としての方向なり、もつと積極的に打出す必要があると思うが、佐藤 その点はまだまだ積極的でないです。司會 そう云う農業団体かどの考え方が国の施策を受け入れなければならない農家に影響するんじゃないですか。町長 今の貧農切捨に積極的に反対意見をもつて表している人もいるしその反面これを機会に土地なり資本なり経営を確かなりたいと望んでいる人々がいるために農業団体と

（広報係 松橋）

今年の焦点は何か



県政の現状と今後の方向

昨年来、わが国では、所得倍増計画や貿易自由化というようないろんなことがさかんに言われ、これにともなう「曲り角に立つ農業」や「地方の工業振興」の問題が大きくとりあげられています。

そこで、今回の特報では、このような国の政治経済の動きのなかで、県政はどう進んでいるのか、豊かな県民生活を目標にかかげる県総合振興計画の進捗状況は順調なのか、また、この計画の大きな課題である農業経営の革新、工業の振興、雇用の促進、恵まれない人々への援護対策などはどうなっているのか、秋田国体の準備態勢に心配はないのか、県政当面の問題を解明し、みなさまの参考に供したいとおもいます。

事業量の99パーセント達成

順調に進む県総合振興計画

県の総合振興四カ年計画は、資源の豊富な秋田に所得が低い本県の県民生活を高めるためにつくられた、いわば県政推進の設計書ともいえるべきもので、とくに、工業の振興と農業経営の革新に重点をおいて、昭和三十四年から三十七年までの四年間に、県民所得を、五倍に増加する目標で進められています。

現在までの事業実施は極めて順調に進み、初年度（三十四年）には計画の一〇〇％を達成したのに引き続いて、今年度は、年度末までまだ数カ月余を残しながら今年度計画事業量の九九％を達成済みという好調な歩みをみせています。

なかでも鉄道・航空計画、治山計画、

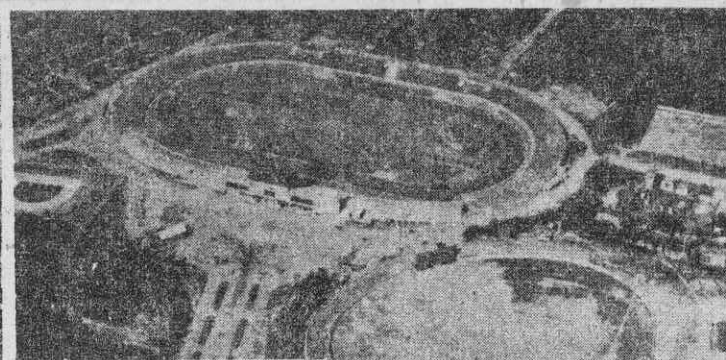
4ヶ年計画が完了すれば

昭和31年 昭和37年

産業が 産かなる	農業生産指数	100	122
	林業生産指数	100	111
	水産生産指数	100	97
	鉱業生産指数	100	162
	工業生産指数	100	190
職場が 収入が 多くなる	就業者数	61万4千人	64万8千人 105.4%
	1人当り 県民所得	6万8625円9角	7万8745円14角 9%
社会や くらしも よくなる	住宅不足数	25,300戸	18,650戸
	無医地区数	17カ所	3カ所
	病床不足数	775床	204床
	水道給水人口	54万1千人	71万2千人
	公共図書館数	553館	583館
全県国民所得水準		81.6%	86.7%

が完成すれば、現在、県の総合振興計画は、その実施設計書という形になっており、この県長期経済構想は、今後早々に決定される予定です。

お母さんのマスゲーム練習風景



八橋主競技場付近

国体はみんなの力まごころで

待望の国体開催迫る 郷土を紹介する絶好の機会

秋田国体は、いよいよ今年九月十四日から夏季大会（ボート）、十月八日から秋季大会が、秋田市を中心に県内二〇市町村、六〇会場で開催されます。

そしていま郷土秋田の名譽にかけて、全県挙げての受入れ態勢に拍車がかけて、いよいよ開催の準備がすすんでいます。

県政とのつながり

また「県民性の創造」とともに「国体という名の都市計画」ということが、大きな開催目標になっています。

つまり、秋田国体開催までに、開催地周辺の道路整備、秋田操車場実現、秋田民衆駅完成、秋田空港実現



最少の経費で成功を

秋田国体での競技種目は三十一種目で、これが二〇市町村に分散して行なわれますが、会場地が多いのは秋田国体のひとつの特色です。

これはできるだけ多くの県民に国体をみていただくこと、会場地を秋田市だけに限らず、県内既存の施設を全面的に活用することにより、最少の経費で成功をおさめようというところから、このため、競技場設備の充実はもちろん、地元サービスの具体化、選手の強化については、地元一体となって懸命の仕上げをかけています。

問題は輸送と宿泊の準備ですが、輸送の面では、国鉄側の全面的な協力によって列車本数の増加が実現できるものと期待されており、またバス、ハイヤーの各会社等でも増台計画をもって、このほか自家用車の協力によって白タクの運用も検討されています。

また宿泊は、二万人の宿泊者に対して、旅館の収容力は半分にも満たない現状なので、この解決策として、会社、団体などの宿泊施設や寺院などの利用をはかるほか、開催期間中、国体選手たちの一般家庭への分散宿泊をお願いして万全の受入れ態勢を整える計画です。

県民総参加で迎えよう

秋田国体は県はじまって以来の大行事で、天皇皇后陛下もお迎えしますが、このような機会は、今後何十年もめぐってこない計算になります。



この絶好の機会を活かしてさきにあげた国体の目的を達成するには、一にも二にも県民みなさんの国体に対する理解と協力が必要です。

宿泊所の提供、マスゲームへの参加はもとより、道をきかれたら親切に教えるとか、家々の門前を花で飾るとか、道路をきれいに清掃するとか、どんな些細なことにもまごころをもって、県民全部が自分も秋田国体で大事な役割を果しているのだという県民総参加の気持をもちあつて、明るい秋田国体を実現したいものです。

こうした開催地側のまごころのこもった思いやりの一つ、一つは、やがて全国から集まる選手、観客者たちの胸にきざみこまれ、今後の秋田の発展にきつと大きく役立つことでしょう。

原料県から生産県へ

秋田湾臨海工業地帯も考慮

秋田県の所得のひくい原因のひとつは、地下資源や木材などの資源に恵まれているが、これを活用して製品をつくる工業がおくれていることです。

これは秋田県の工業人口や出荷額によっても明らかで、したがって、工業振興は総合振興四カ年計画でも、最も大きな課題となっています。

工業振興のみならず、県内に大きな工場を設置すること、現在九割以上を占める中小企業を育成強化して



発展する秋田臨海工業地帯

★製造品の出荷額	★工業人口
北海道 2510億7000万円	全国平均—17.8%
新潟 1384億6700万円	
富山 1084億9700万円	秋 田—6.3%
福島 753億7800万円	
秋 田 579億 800万円	

このほか、将来の工場の地方分散などに即応していくために、秋田・船川間を包括する大規模な重工業地帯「秋田湾臨海工業地帯」を造成する計画も検討しています。

いふことの二つありますが、県ではこのため、秋田臨海工業地帯に九〇万平方メートルの工場敷地をつくるほか、道路、港湾、電力などの立地条件を整備をはかり、地下資源や木材などを利用した大工場の設置につとめています。

そして最近では、湯沢市のタイヤ工場、秋田市のパチクルボード工場などが設置されたほか、秋田港の新工場敷地は中央の石油会社に譲渡され、すでに石油配分基地として業務が開始されています。

農業の近代産業化へ

県版の「農業基本問題」をつくって

一方、農業は、県人口の約六割を占める本県の最も大事な産業ですが、最近、この農業の所得と他産業の所得との差が広がるばかりという大きな問題がでてきています。

さらに、貿易の自由化によって外国の安い農産物との競争の心配も出ています。

一口に「曲角にある農業」といわれているのもこうしたことに起因しているのですが、たとえば秋田県の場合でも、鉱工業就業者一人当たり年間所得は二七万円もあるのに、農林業に働く人たちの所得は、わずか九万八千円しかない現状です。

これは、もともと①農地がせまいうえに人口が多いことが根本の原因ですが、また②本県の農業が米づくり一本で、土地や労働力の利用が十分でないことや、③生産も増えたが生産費もそれ以上に増えていることなども原因になっています。したがって

▼土地をひろげて農業の規模を大きくすること。▼米以外の農業をとり入れて土地や労働力を効果的につかうこと。▼機械化や共同化をはかってもっと利益のある農業にすることが肝要です。



生橋線の完成部分

道路は住宅地の舗装から

空港は国体までに整備

工業の振興、農業の近代化を叫んでも、道路、鉄道、港湾などの動脈が整備されなければ産業の振興はのぞまれません。そこで県では

○道路の舗装と、木橋の永久橋化を中心とした道路整備。

○臨海工業地帯の中心である秋田、船川両港の整備。

○国鉄線路の複線化。生橋、鷹角両線の完成。

○秋田空港の完成。などを重点に交通対策をたてています。

恵まれない人々に幸せを

身障者の更生施設も新設

いくら県全体の産業が発達し、所得のびでも一部に生活や健康の恵まれない人々がいるのでは、真の県民福祉の向上とはいえません。

このため県では、これらの人々のくらしと健康を守るため、各種の福祉制度、保険制度の充実をはかるほか、住宅不足の緩和や消防施設の整備についても指導や援助をしています。



また、港湾整備では、秋田港に一万トン岸壁を着工し、船川港には三千トン岸壁を増設、そのほか臨海道路の整備を進めるほか、鉄道関係では、例年繰返される滞貨問題を解決するため、秋田操車場上り線の完成

また無医村、病床不足の解消や高血圧、ガンなどの成人病対策についても全力をあげています。

一方、生活に困る家庭への援助対策として、世帯更生資金、医療費貸付、たすけあい資金の経済的援助の枠を拡げるとともに、恵まれない子どもについては、県内九カ所の児童福祉施設と四百余人の里親によって保護し、ちえのおくれた子どもの施設を増築して定員を増増するほか、養護施設の子どもの就職支度金を全国にさがけて支給し、また母子家庭の児童の完全就職をめざして、知事が身元保証をする条例を制定するなど、温かい施策の運用に懸命の努力を傾注しています。

また、身体障害者の職業更生については、技能習得委託制度の強化をはかることともに、近く県立身体障害者更生指導所を秋田市新屋に新設して、今春から開所する予定です。

は、昭和三〇年頃に比らべ二倍の伸びをみせており、建具は軽工業等も、倉庫の建設金融の措置を講じた結果、めざましい躍進をとげています。



仙北の酪農地帯

就業人口と所得の比較

	就業人口の割合	生産所得の割合 (昭31年)
農業水産		
全国	41.1%	18.5%
秋田	61.5%	38.2%
鉱工建設		
全国	29.0%	42.3%
秋田	17.2%	31.5%
商業その他		
全国	29.9%	39.2%
秋田	21.3%	30.3%

つまり、これまでの農業のしくみやあり方を大きく変えていかねばならぬわけで、これが現在いわれている農業構造の改革なのです。

そこで県では、まず農地を拡げる事業として、由利原や田沢湖周辺の開拓や八郎湯の干拓により、三四年から三七年までの四年間に三千町歩の農地をつくるほか、既耕地をもっと活用するため土地改良を五万町歩を目標に実施しています。

経営面では、生長農作物といわれる酪農や果樹、てん菜などを技術、経営、資金の各面から指導援助し、ここ数年間に乳牛は三倍半、果樹生産は、一・五倍というように、新しい農業の芽は着々と成長してきています。

これらの農業を進めるには、どうしても機械化や共同化が大切ですので、共同グループや部落の育成指導にも力をいれています。

県民のすべてが明るい職場につくことは、ひとり農村にかぎらず、県政にとっても重要課題であり、小畑知事も公約の第一に、この職場開拓をしかけています。

現在本県では、総合振興計画にもとづいて、商工業の振興、新農地開拓、八郎湯干拓、海外移住などによる新しい職場の開拓につとめています。したがって、とくに新規卒業者や二・三男の若い人々の就職あっせんに重点をおいています。

このため、東京に専任の補導職員を配置し川崎市に秋田県青少年ホームを建築する一方県内求人労働条件を向上させるため、職業安定所を中心に、中小企業求人者に対する指導強化につとめています。

幸い、今年は戦後最高の求人ブームに恵まれ、新卒就職希望者の全員(中学五、四〇〇人、高校六、九〇〇人)の就職が

若い人に

明るい職場を

きる明るい見通しです。また一般の二・三男の就職については、全県各市町村に五七三人の雇用促進協力員の配置をお願いし、職業安定所と市町村が一体となって就職あっせんにつとめた結果、本年度上半期では、前年同期に比らべ四・六割増に当る四、三三五人の常用就職をみることであります。このように若い人の職場開拓は、着々成果をあげていますが、しかし最近の産業界では、技能者の需要が高まってきたので、この対策として、県では今後技能習得に力を入れる計画です。

そして明年昭和三十一年度までに、職業訓練所の訓練生を二・七倍にするよう訓練施設、科目等を増強して、新規卒業者、農家二・三男、季節労働者等の技能職種への就職促進をはかることになっています。